

第4章 主要課題の整理

1. 広域的な課題

第2章「広域的条件の整理」にて整理した各項目の現況について要約し、それぞれ課題について整理した結果を以下に示します。

表4-1 広域的な課題の整理

項 目		現 況	課 題
社会・ 経済情勢	人口	・仙南地域の多くの市町が人口減少に転じている中、大河原町は僅かではあるが増加している。	・居住地としての生活利便性、快適性の確保
	世帯数	・大河原町は、世帯数増・1世帯あたり人口が減少している仙南地域の中でも核家族化・単身化の傾向が顕著である。	・既存コミュニティの維持や新規コミュニティ創出のための施策整備
	年齢別人口	・仙南地域全体で高齢化が進んでおり、大河原町でもその傾向が見られる。但し、高齢化率が26.8%と、他市町と比較すると低い。	・高齢化に伴う交通弱者の増加を踏まえた歩いて暮らせるまちづくりの実践
	就業者数	・仙南地域の中で、大河原町では第3次産業就業者の比率が高い。	・高齢化による第3次産業就業者減を防ぐための就業支援
	観光入込客数	・仙南地域は蔵王連峰や阿武隈溪谷などの観光資源により年間600万人を超える観光客の入込があるが、大河原町は30万人弱から40万人程度に留まっている。	・交流機能の強化
	広域交通網	・大河原町はJR東北本線や国道4号が整備されるなど、仙南地域の交通結節点となっている。	・仙南広域圏の居住者や来訪者も意識した都市機能や土地利用の配置、誘導
	通勤通学動向	・仙南地域全体では流出超過になっており、大河原町の流出口は柴田町に次いで多い。	・昼間人口増のための交流機能、就業環境向上の検討
	買い物動向	・仙南地域は大河原町を中心とする地域型商圈の大河原商圈を形成している。	・大河原商圈の中心地として必要な機能検討
上位関連計画	長期総合計画	・人口減少時代を意識した住民主権のまちづくり推進を進める。	・住民が町に興味と誇りを持ち、まちづくりに参画するような魅力づくり ・低・未利用地への住宅や都市機能誘導のための方策検討
	第4次国土利用計画	・低・未利用地を有効活用したコンパクトな土地利用推進を目標としている。	
	仙南広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針	・大河原町は柴田町と連担して大きな「市街地ゾーン」と位置づけられている。	・住居系、商業系、工業系といった都市的土地利用の集積 ・低・未利用地における都市的土地利用への転換誘導

表4-1 広域的な課題の整理

項 目		現 況	課 題
上位関連計画	仙南広域観光推進プラン	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王連峰を中心とした観光推進プランとなっている。 「地域住民等による観光資源の発掘と発信」、「地域の優れた資源の磨き上げ」など観光資源の発掘・磨き上げを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵王を活用した町の魅力づくり
	大河原町地域防災計画	<ul style="list-style-type: none"> 風水害、地震に対する予防対策等を包括的に位置づけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災に係る具体的な施設整備方針の検討

2. 都市的な課題

第3章「都市の現況整理」にて整理した各項目の現況について要約し、それぞれ課題について整理した結果を以下に示します。

表4-2 都市的な課題の整理

項 目	現 況	課 題	
自然的条件	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵地に囲まれ、白石川の流れによってできた平地部が町域の多くを占めている。 町の外周を森林が取り囲んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 連続した低地部における水害時等に速やかな避難を実現する施設等のあり方検討 森林環境の保全 	
歴史	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代には奥州街道の宿場として栄え、今も街道沿いの一部に往時の面影を残す建物を散見することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化を伝える建物等を活用した町の魅力付け 	
人口	<ul style="list-style-type: none"> 昭和60年比で年少人口（0～14歳）が3割ほど減り、高齢人口（65歳以上）は3倍に伸びるなど、高齢化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が安心して暮らせるまちづくり推進 公共交通サービスの充実 若い世代の定住促進につながる都市機能誘致 	
産 業	就業者数	<ul style="list-style-type: none"> 第1次産業と第2次産業の就業者数は減り、第3次産業の就業者数が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1次産業の振興に関する取り組み検討 第3次産業の維持・更なる発展のための企業誘致
	農業の動向	<ul style="list-style-type: none"> 農家戸数が昭和60年比で3割弱にまで落ち込んでいる。その多くは農家戸数の大半を占めていた第2種兼業農家である。 耕地面積は平成17年度では下げ止まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作面積の大きい経営体への支援等、農地保全のための施策検討
	工業の動向	<ul style="list-style-type: none"> 平成2年のピーク時に比べ、平成26年の事業所数は約7割減、総従業員数は約6割減、製造品出荷額（総額）も約7割減と大きく減っているが、平成17年以降は比較的安定し、横ばいで推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模未利用地への企業誘致が可能な土地利用づくり 町内の空き工場（跡地）の活用策の検討
	商業の動向	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年比で平成24年には従業員数が3割程減っている。 後継者不足や店主の高齢化、インターネット等活用の無店舗販売により既存商店街は厳しい状況となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存商店街の持続に向けた高齢社会の対応策検討 空き店舗や低・未利用地の活用に向けた起業・創業者の支援策整備

項 目		現 況	課 題
土 地 利 用	土地利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 昭和60年比で宅地が7.4%（187ha）増加しており、緩やかに市街化が進んでいる。 市街地内では宅地と畑地・空宅地が混在した土地利用となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地内の低・未利用地の宅地化による市街地拡大抑制
	開発等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業や道路整備などにより計画的に市街地が拡大していった。 農地転用が増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 良好な住宅地環境の維持 低・未利用地への新規入居者受入れ まとまった農地の保全
	空き地・空き家	<ul style="list-style-type: none"> 金ヶ瀬地区の古くからある市街地で比較的空き家率が高く、川西の古い住宅地や川東の古い土地区画整理事業地の一部で空き家率が高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 出火・倒壊の危険性回避のための施策検討 空き家や空き店舗や低・未利用地を活用した居住誘導、起業・創業者支援
公共交通		<ul style="list-style-type: none"> 路線バスは、2路線が運行されているが、その運行範囲は金ヶ瀬地区～川西地区に留まり、川東地区や金ヶ瀬地区の山間部に位置する集落では運行されていない。 町では、デマンド型乗合タクシーを運行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通ルート周辺への都市機能、居住誘導 デマンド型乗合タクシーの機能強化
防 災	土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の大部分は土砂災害危険個所の指定エリアから離れているが、川東地区の丘陵部に位置する住宅地の一部や西側山間部の集落、主要地方道白石柴田線及びJR東北本線の一部の区間が土砂災害危険個所に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害に脆弱な区間における幹線交通の強靱化検討 住宅地拡大の抑制
	洪水災害	<ul style="list-style-type: none"> 浸水エリアは川東地区にはほとんど見られないが、金ヶ瀬地区から川西地区の広い範囲を覆っている。 水害に対する指定の避難所・避難場所は川東地区に集中しており、川西地区からの避難、特に役場周辺やその北側の市街地からの避難を難しくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 浸水エリアから避難場所までの距離を踏まえた適正な避難路や避難誘導施設の整備 浸水エリア内の安全な建物への垂直避難可能な建物指定等の対策検討
	木造密集市街地の状況	<ul style="list-style-type: none"> 全家屋のうち80%以上が木造であり、特に土地区画整理事業が実施されていない町地区などの古い住宅地などでは木造家屋が密集している。 	<ul style="list-style-type: none"> 消化施設の整備 延焼防止のための公共オープンスペースの適正配置

項 目	現 況	課 題	
道路交通・都市施設	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・国道4号は、近年の4車線への道路改修により混雑の解消が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑解消の状況を踏まえた道路網の見直し
	駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> ・JR大河原駅前では、東側（裏）、西側（表）の2箇所が駅前広場として都市計画決定されているが、供用されているのは西側のみである。 ・東側は、駐車場や駐輪場として暫定利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西側広場の機能維持 ・東側広場の今後のあり方検討
	都市公園	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園面積が、都市公園法施行令に示されている10㎡/人に満たない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな都市公園やそれに準ずる施設整備を検討
	上下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水排水については古くから浸水対策事業を進めてきたが、近年では鷺沼排水区雨水整備事業として、柴田町と共同で下流域から排水路及び調整池の整備を実施し、白石川へのスムーズな放流及び調整池への貯水により、浸水被害の解消を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の維持管理
その他公共施設	教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の小学校の児童数は、平成12年度までに大きく減少したが、その後、横ばいで推移している。 ・中学校の生徒数は平成17年から横ばいで推移し、高校は平成22年から横ばいになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境維持を図るための若年層定住促進
	福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に川西地区に偏った配置となっており、金ヶ瀬地区や川東地区にはほとんどない状況となっている。 ・金ヶ瀬地区では公共福祉施設が見られないが、私立保育所が1か所、放課後児童クラブが金ヶ瀬小学校内と私立保育所内の2か所にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間福祉施設維持のための施策検討
	公営住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・267戸の公営住宅に、212世帯が入居していることから、一定の居住ニーズが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した住宅の維持管理計画の検討
	社会施設	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所は町内各地に分散して分布している。スポーツ施設がない金ヶ瀬地区では小中学校がその機能を代替している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層向けの多様なスポーツ機能を付加した施設の拡充
観光・景観・イベント・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客入込数は年間30万人から40万人程度で推移しているが、「おおがわら桜まつり」に大きく依存しており、他の時期の観光客入込数は2割に満たない。このため桜まつり開催期間中に天候不順が続いた平成27年のように天候の影響を受けやすい状況となっている。 ・一目千本桜を含めた白石川を中心とした景観は、町民にとってシンボリックな景観となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおがわら桜まつり」以外の魅力づくりと通年観光に向けた検討。 ・白石川沿いの魅力向上による観光・レクリエーションのまちづくりの推進。 	

3. 住民意向を踏まえた課題

住民意識調査の結果について要約し、それぞれ課題について整理した結果を以下に示します。

表4-3-1 住民意向を踏まえた課題の整理〈主に買い物などを行っている場所〉

現 況	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・通勤、通学先は半数以上が町外であり仙台市、柴田町が多い。 ・金ヶ瀬地区では、仙南地域の他市町の割合がやや高い。 ・通勤・通学先について、若年層ほど町外が多い。 ・日用品・食料品の買い物先や、病院・医療施設は町内でする人が大部分を占め、その中でも居住地域内とする人が多い。 ・高齢者で町内が多い。 ・買い回り品の買い物は町内、町外ともに一定数あり、仙台、名取市の割合が多い。 ・若年層ほど町外で買い物する傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内での商業（買回り品販売）の強化と休日のレクリエーションの場となる空間や機能の強化 ・町内での若年層の就職機会の確保 ・町内での若年層のレクリエーションの場確保

表4-3-2 住民意向を踏まえた課題の整理〈交通手段〉

現 況	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・休日のレクリエーション、外出は大部分が町外となり、仙台市、名取市が多い。若年層ほどこの傾向が顕著である。 ・目的に関わらず、移動手段は自動車が多め、若年層ほどその傾向が顕著である。 ・鉄道を利用する際、大部分の町民がJR大河原駅を利用する。 ・JR大河原駅前への移動手段は徒歩・自転車が多く自動車も一定数見られる。 ・ほとんどの町民がデマンド型乗合タクシーを利用していないが、高齢者ほど利用割合が増加する。また、台数が少ないことや予約方法の不便さが指摘されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による自動車免許返納増加を見据えた歩行者・公共交通利用を踏まえたまちづくり（デマンド型乗合タクシーの強化、地域別の歩いて暮らせる範囲での生活の充実等）

表4-3-3 住民意向を踏まえた課題の整理〈今後のまちづくりについて〉

項 目	現 況	課 題
コンパクトなまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトなまちづくりに対する賛成意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存市街地、市街化区域内の空き家、低・未利用地や各種施設を活用したまちづくり方針の検討
住宅地について	<ul style="list-style-type: none"> 居住地周辺での医療・福祉施設、買い物環境の充実、街路灯等による安全性向上が特に求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域別での医療・福祉や買い物の場確保
商業地について	<ul style="list-style-type: none"> J R大河原駅周辺、国道4号沿いにおいて商業地としての更なる充実が求められている。 高齢者はJ R大河原駅周辺、若年層は国道4号沿いとする意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> J R大河原駅周辺に対して不足する商業機能を充実 高齢社会に向けた地域を支える商業機能の充実 大河原商圏を維持するための国道4号沿い商業機能の充実
工業地について	<ul style="list-style-type: none"> 金ヶ瀬川根工業団地への企業誘致を求める意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 金ヶ瀬川根工業団地を含めた企業立地推進による就業者増
農地について	<ul style="list-style-type: none"> 無秩序な農地開発を求めない意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 無秩序な開発を抑制し、農地を保全
山林について	<ul style="list-style-type: none"> 無秩序な山林開発を求めない意見が多い。 レクリエーションの場として整備してほしいとの意見が一定数見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 無秩序な開発を抑制し、山林を保全 遊歩道等既存レクリエーション機能の維持・拡張
町の拠点について	<ul style="list-style-type: none"> 大河原町役場・商店街およびその周辺を町の拠点と考える意見が多い。 川東地区はJ R大河原駅周辺、金ヶ瀬地区は国道4号沿い（広表周辺）と地域内の場所を町の拠点と考える傾向が見られる。 若年層は国道4号沿い（新南・新東周辺）、高齢者はJ R大河原駅周辺を拠点と捉えている傾向が見られる。 拠点に求められる機能は日用品販売店舗、医療・福祉施設、観光交流施設・物産店が多く、飲食店やサロン等の娯楽・交流空間は少ない。高齢者では医療・福祉を求める意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 大河原町役場・商店街への日常生活のための都市機能集約 地域拠点としてのJ R大河原駅周辺、国道4号沿い（広表周辺）での拠点機能の補完 世代別の考えに見合った場所別の必要機能検討

表4-3-4 住民意向を踏まえた課題の整理〈個別の都市づくりについて〉

項 目		現 況	課 題
都市 基盤 施設	道路について	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路整備、歩行者の安全性確保、夜間の安全性確保（街路灯整備）への要望が多い。 ・幹線道路の充実を求める意見は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区画道路等、住宅地周辺の道路の利便性・安全性を優先した再整備
	公園について	<ul style="list-style-type: none"> ・大河原公園の再整備については散策路や休憩施設、大規模広場への要望が多く、特に再整備の必要は無いとする意見は少ない。 ・身近な公園に対しては、維持管理の充実を求める意見、休憩施設の整備への要望が多い。 ・若年層では遊具の設置・充実を求める意見も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・散策、休憩施設やイベント広場の拡大を中心とした大河原公園再整備の方針検討 ・住区基幹公園等の維持管理充実、管理計画検討と休憩施設、遊具の充実
	白石川の利用について	<ul style="list-style-type: none"> ・散策路や休憩所、広場、駐車場整備への要望が多い。特に、若年層が広場の確保を求める傾向が見られる。 ・場所によって意見数に大きく差があり、中心部では多様な意見がある一方、東側、西側ではサイクリングロードの充実が大部分を占める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川敷を活用したサイクリングロードの魅力向上 ・中心部の河川敷整備
地域振興のための 取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・桜まつり以外の大規模イベント開催、交流を広げる魅力的な商工業の発展と雇用創出を求める意見が多い。 ・桜まつり時には交通渋滞が発生する。また、駐車場が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なイベント実施に対応する場所の整備 ・交流につながる商工業の充実 ・桜まつりに対する環境整備
景 観	大切な景観	<ul style="list-style-type: none"> ・一目千本桜を中心とした白石川に関連する景観を大河原らしさを感じる景観とする意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一目千本桜や河川敷景観の保全
	景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・J R大河原駅前や、白石川の景観整備を求める意見が多い。 ・半数以上が景観づくりへの関心はもたないが、高齢者は比較的官民共同での景観づくりへの関心が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・J R大河原駅前の景観整備 ・白石川河川敷での花木による修景 ・景観づくりへの関心を高めるための取り組み検討

表4-3-5 住民意向を踏まえた課題の整理〈まちづくり活動への住民参画〉

現 況	課 題
<ul style="list-style-type: none">・地域活動へ参加している人、参加したい人の合計値が約5割だった。しかし、若年層の参加率は低くなっている。・今後のまちづくり活動への参加意向は、話し合いの場には参加せず、アンケートに協力したいとの意見が多い。・行政支援に対しては、町の広報誌等による情報発信を求める意見が多い。	<ul style="list-style-type: none">・地域活動への若年層の参加者増につなげるための取り組み検討・まちづくり活動の周知方法の検討・意見交換等に積極的に参加してもらおうことができる活動方法の検討

4. 都市づくりの課題の整理

(1) 都市づくりの課題整理の検討フロー

都市づくりの課題について、広域的条件や都市的課題、住民意向調査などからの課題の相互を比較し、近年のまちづくりに関する流れを踏まえて検討を行いました。

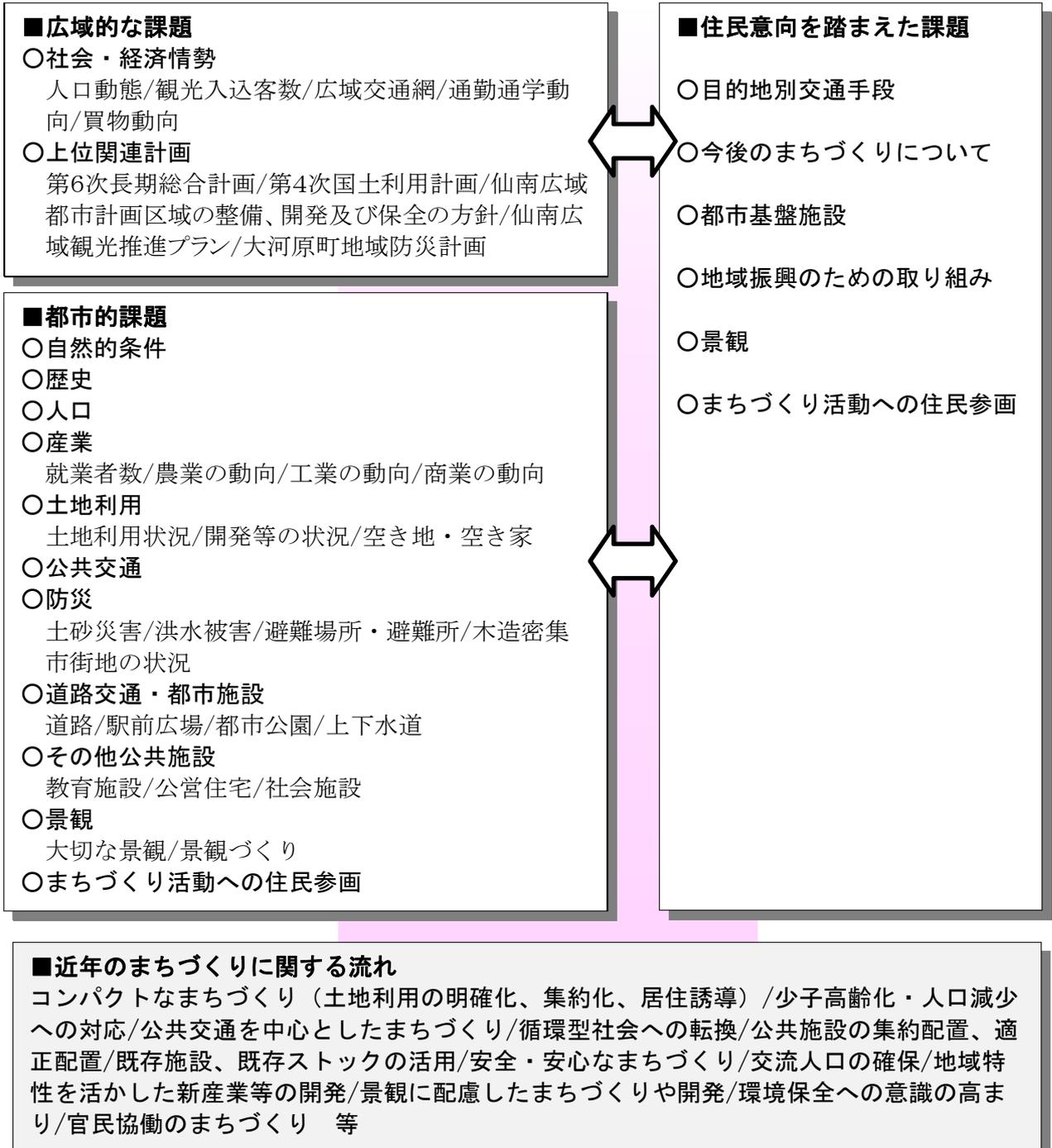


図4-1 都市づくりの課題の整理

(2) 都市づくりの課題

これまでの検討に基づき、本町における都市づくりの課題を下記のとおり整理しました。

課題1：コンパクトな市街地の維持と公共交通利用を踏まえた交通ネットワークの再構築

本町では、今後少子高齢化が更に進展し、人口減少に転じることが予測されます。それに伴い、市街地内の空き家や低・未利用地の増加が懸念されます。そのため、既存の空き家や低・未利用地を定住人口確保の受け皿及び公益的施設誘致に活用することで、効率よくコンパクトな市街地を形成していくことが求められます。昨今の社会情勢を見ると、商店街については後継者不足や店主の高齢化に加え、インターネット等活用の無店舗販売により活性化が難しい状況にあります。公共交通の利便性が高い立地にある商店街の再生は、コンパクトな市街地形成に向けて非常に重要な要素であるため、そのための施策を検討する必要があります。

課題2：安全・安心で過ごしやすい住環境整備

土地区画整理事業によって整備されていない古くからの市街地は、建築物が密集し、狭隘道路が見られるなど市街地環境を改善する必要があります。

一部の幹線道路や鉄道、住宅地が土砂災害危険区域と重なっています。そのため、日常生活の安全性確保に加え、災害時の緊急搬送や、物資輸送路となる幹線道路の強靱化を図るための施策を検討する必要があります。

平野部に位置する市街地や農地の大部分が洪水による浸水が想定されており、浸水区域外の水害時避難場所までの避難には長い距離を要する場合があります。そのため、市街地からの速やかな避難を実現するための施策を検討する必要があります。

課題3：仙南地域の交通・商圏の要衝としてふさわしい土地利用・都市機能の配置

本町は、仙南広域圏における交通・商業の要衝となっています。今後人口減少に転じることが予測される本町においては、定住人口の確保に加え、仙南圏域居住者を対象とした商業の維持・発展を図るための施策を進める必要があります。

また、本町にはみやぎ県南中核病院やえずこホール等の広域圏を対象とした公益的施設・公共施設が立地しており、公共的な拠点としての利便性向上を図る必要があります。

課題4：地域特性を活かした産業・交流・レクリエーション機能の強化と市街地景観づくり

町域中央部を横断する白石川とその堤防に植栽された一目千本桜は、本町のシンボルとして多くの町民に愛されています。この魅力的な資源を保全し、有効活用を図ることで地域の魅力を高め、定住人口を確保することが求められます。また、近く人口減少に転じることが予想される本町においては、交流人口の増加を図る必要があります。そのためには、河川利用のニーズが高い区間を中心に、魅力的な白石川と一目千本桜を活用した交流機能の強化を図るための施策が求められます。また、イベント時の交通渋滞や駐車場不足の解消が求められます。

他にも、旧奥州街道沿線（既存商店街等）を中心に歴史的な建造物などが点在していることから、これらを保存・活用した街路景観づくりを推進するなど、地域特性を活かした交流空間や景観の形成による魅力向上の検討が求められます。

産業面では、西側の金ヶ瀬地区の川沿いにある金ヶ瀬川根工業団地に残る未利用地の活用、既存企業の事業拡大への支援を行いながら、企業立地の可能な用地の調査及び町内空き工場（跡地）等の活用策などの検討が求められます。

課題5：豊かな自然環境の保全とそれを活用したレクリエーション空間や自然景観の活用

本町では、国道4号北西側の低平野部にまとまった水田が形成されており、重要な自然資源となっています。また、これが美しい田園景観を創出しており、蔵王連峰と一体となった美しい景観を形成する重要な景観資源となっています。一方で、農業従事者は減少傾向にあることや、農地転用が増加傾向にあることから、農地を維持するための対策を進める必要があります。

また、町域の大部分が丘陵地に囲まれており、豊かな山林が形成されています。丘陵部の一部では、大高山遊歩道など森林浴や紅葉狩りを楽しめる里山散策の場があり、貴重なレクリエーションの場として維持していくとともに、散策ルートの拡大や市街地部と一体となったルート設定、ルート上の再整備等、町民の健康増進や観光交流に寄与する施策の検討が求められます。

課題6：官民協働によるまちづくりの取り組み

近年、公園等の公共施設管理に加え、計画段階から行政と住民が協働でまちづくりに取り組む官民協働の動きが広く普及しつつあります。本計画策定にあたっては、町民アンケートや意見交換会等を実施しているほか、町民の皆様に町内会活動等に取り組んでいただき、官民一体となったまちづくりを進めています。

あらゆる世代、より多くの町民の皆様に様々な場で地域活動・まちづくり活動へ積極的に参画していただくため、積極的な周知活動を図っていくことが重要です。

